

あいちトリエンナーレ開催中、「所蔵作品は展示されていないのですか？」というお問い合わせが多くありました。ふだん企画展の影に隠れてしまいがちな所蔵作品展を楽しみにしてくださっている方もいらっしゃる事が実感でき、とてもうれしく思いました。

お問い合わせくださった方々の気持ちにお答えすべく、「美の精髓 愛知県美術館の名品 300」が始まりました。美術館全フロアを用いた大規模な展覧会となっていますので、ぜひお越しください。

ホームページでもこの展覧会の内容についてはご紹介していますので、今回は所蔵作品展やそれに携わる学芸員の仕事について、書いてみたいと思います。

当館の学芸員は二つのグループに分かれています。「企画普及グループ」と「美術グループ」です。「企画普及グループ」はその名の通り、展覧会の運営や広報、教育プログラムを行う仕事を担っています。このブログの運営や編集もそのうちの一つです。もう一つの「美術グループ」では、主に所蔵作品に関わる仕事を受け持ちます。たとえば、作品の保存、情報管理、作品の収集、展覧会への貸し出しなどがあります。所蔵作品展もまたこの「美術グループ」の学芸員が担当する仕事です。

よくコレクションの展示を「常設展」と呼ぶ美術館や博物館がありますが、当館では少し長くて言いづらいですが、「所蔵作品展」と呼んでいます。開館当初から、通常5つの展示室を使って、毎回新しい展示を行い、コレクションの多面的な魅力をご紹介することを目指したため、「常にある展示」ではなく、毎回異なる「所蔵作品による展覧会」という意味をこめて「所蔵作品展」という名にしたと、先輩学芸員から聞いたことがあります。

毎回総とっかえなのですから、それにかかる労力は大変なものです。美術館運営の厳しいこの時代にあって、展示作業の予算もますます削減され、課長以下美術グループ6名の学芸員は毎回展示作業の監督ではなく、プロの展示作業員さんと一緒に展示を行います。といっても、巨大で重い作品を扱ったり、逆にとても繊細な作業はやはりプロの方にはかなわないので、美術品を専門に取り扱う作業員さんにお願います。私たちにできるのは、主に比較的手ごろなサイズの作品を収蔵庫から展示室まで運び、壁

に掛け、水平を見て固定し、照明をします。また作品の隣にいつもあるキャプションを作ったり、それを壁に留めたりと、手作りの展示です。



↑ 掛け軸を展示する様子



↑ キャプションを取り付ける作業も学芸員が行います。今回は 300 点もの作品につけました。



↑キャプションをつけるときに使用している定規のようなもの。これで高さや作品からの位置を定めま
す。これも手作り！

今回の「美の精髓 愛知県美術館名品 300」では、通常の所蔵作品展の倍の規模で展示をしたので、作業
は2週間にも及びました(通常は1週間)。間に合わなくて、夜の8時すぎまで展示作業をしたり、企画
普及グループの学芸員が手伝ってくれたりもしました。またキャプション作りなど展示作業の要所要所
で頼れるアルバイトの方たちの存在も貴重です。

ちょっと長くて言いづらい愛知県美術館の「所蔵作品展」ですが、学芸員が手作りするこの展示を今後
ともご愛好ください。

(MRM)